

事業実績報告書

様式 2
(2019年度)

※この報告書は、なごや環境大学のウェブサイト上に記録として掲載されます。

講座番号	B-26	講座名	ごきそテクノカフェ
記載日	2019.9.24	団体名・企業名	名古屋工業大学ごきそ技術士会

〈講座全体の概要〉(300字程度)

本講座では、主に名古屋工業大学の教員やごきそ技術士会の多分野の専門家が市民向けの講演を試みます。高度な技術社会といわれる現在を振り返りつつ、今話題になっているテクノロジーのホットな議論に分け入って話題提供します。そして、モノを創る人とそれを利用する人との間のコミュニケーションにより、必ず存在するリスク共有を図り、名古屋の安全・安心を見通します。特に今回は、初登壇の技術者3人をお願いして、航空機の環境保全への取り組みや、金属材料と環境の関連、それと自然風穴の利用による古来からの環境技術の紹介を企画しました。



※写真1の説明

2019.5.18 第2回講座は「古代日本の金属精錬と環境」を犬丸晋技術士が語った。

※写真2の説明

2019.9.21 第6回講座で講演する山口正隆技術士。南米ペルーの環境と暮らしの話。

〈企画・運営者の声(感想)〉(350字程度)

今回は新しい講師を3人にして講座計画を立てました。そのことで新しい受講者が増えましたが、固定の受講者の関心をつかめずに、全体としては受講者数を伸ばすことができなかつた。また、第3土曜の午後は確かに受講しやすい時間帯ではあるが、他企画と重なるようで、講座のあることを知っていたが参加できなかつた他との声を聴くこととなった。受講者ニーズ対応の講座を企画すると、結局受講者都合に振り回されてしまうと痛感する。ごきそテクノカフェのポリシーを鮮明にして、継続するしかないとの思いを新たにする事となった。

〈受講者の声(実感した反応及びアンケートより)〉(3~5点、計350字程度)

- ・ 風穴という自然が作り出した地形を人間がうまく利用してきたという話には、驚きと同時に先人の知恵をもっと活用する必要があると感じた。
- ・ デジタルカメラの圧縮機能の仕組みの解説で良く呑み込めた。しかし、結局難しい工学的知識である、自分が人に話せるほどには理解できなかった。
- ・ 工学的製品の材料の重要性がエネルギー効率/摩擦との関連でよく理解できた。
- ・ 古代遺跡に関する生の体験的知識を得ることができた。